

患者や家族の実体験⑥

痛みの専門治療で 気持ちも立て直す

(60代女性、膵臓がん)

膵臓がんが再発してからは、痛みがひどくて毎日が辛かったです。もう治療を続ける意味がないんじゃないかと落ち込んでいました。そんなとき、主治医に勧められて緩和ケアチームに相談したんです。痛みを抑える薬や方法を提案してもらい、少しずつ身体が楽になりました。痛みが減ると気持ちにも余裕が出てきて、治療方針を冷静に考えることができました。緩和ケアって末期だけじゃないんだと知って、もっと早く相談すればよかったと思いました。

患者や家族の実体験⑦

友人の一言が 不安を和らげてくれた

(50代男性、肺がん)

肺がんと診断されたとき、自分がそんな病気になるとは思ってもみなかったので、ショックで孤独を感じました。家族にもどう話していいかわからず、一人で悩んでいたんです。そんなとき、長年の友人に電話で打ち明けたら、『お前なら大丈夫だ。一緒に闘おう』と言ってくれました。その一言で、心が軽くなり、家族以外にも支えてくれる人がいるんだと気づきました。それから、少しずつ周りに相談する勇気が出てきました。

Chapter 8

〔第八章〕

病院の情報

共通情報



病院の情報

● 基本理念

「病む人、家族、
そして県民のところに添った
最良の医療をめざします」



扁額



● 設立の理念

「好生の徳は民心にあまねし」
「学問なくして名医になるは覺束なきことなり」

(古賀穀堂「学政管見」より)

● 基本方針(目標)

1. 患者中心の信頼される医療
2. 良質で安全な高度医療
3. 救急医療の確保と地域連携の医療
4. 教育の重視と人材の育成
5. 経営努力による経営効率の改善

地域医療を支える最新の設備

● 手術支援ロボット^{ダヴィンチ}(da Vinci Xi)

患者さんの負担を軽減し医療の可能性を広げる



daVinciXiは、内視鏡手術を支援するロボットです。患者さんの体を開けた小さな穴からカメラや鉗子を挿入し、執刀医は、サージョンコンソールで3D映像を見ながら、鉗子を遠隔操作します。当館では、消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、産婦人科及び泌尿器科でdaVinciXiを用いたロボット支援下手術を実施しており、2023年

度は224例が施行されました。daVinciXiには多くのメリットがあります。例えば、daVinciXiでは患者さんの体内で直接臓器を見ているかのような、立体的で鮮明な視野で手術を行うことができます。また、人の手よりも自由度の高いアームを備え、複雑で繊細な動きができる他、高度な手ブレ補正により手ブレも起こりません。その他、出血量が少ない、傷がほとんど残らない、術後疼痛が少なく回復が早いなどのメリットもあり、医療の可能性を広げるものとして期待されています。



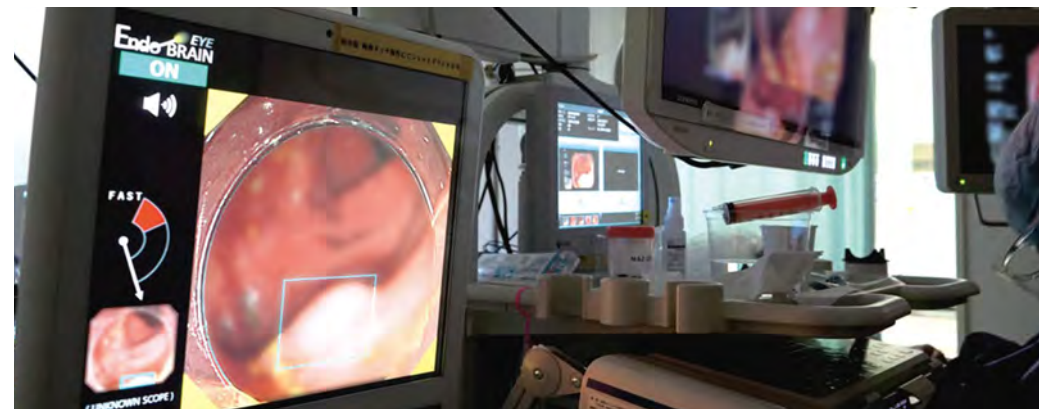
● 放射線治療装置(TruBeam)
トールービーム
精緻な照射で患者さんの負担を軽減



放射線治療は、手術や薬物療法と並ぶがんの3大治療法の1つです。病巣に放射線を照射し、がん細胞の遺伝子（DNA）にダメージを与えて、がん細胞を壊す治療法です。X線撮影と同様に、放射線があたっても、痛みや熱を感じることはありません。放射線治療のみでがん治療を行うこともあります。病期や症状に合わせ、手術や薬物療法などの治療法と組み合わせて放射線治療を行うこともあります。がんを完全に治癒することを目的に行われる場合が多いですが、手術や抗がん剤治療後のがんの再発予防や、がんによる痛みなどの症状の緩和を目的として行われることもあります。当館では、2024年3月に「TrueBeam」（トールービーム）という放射線治療装置を導入しました。この装置は、がん細胞に対して適量の放射線をピンポイントに照射し、高精度・短時間に治療する機能等を備えており、頭頸部、体幹部、四肢にわたる幅広い部位のがんの他、脳転移、骨転移などの転移性腫瘍にも適応があります。また、2台のフラットパネル検出器に加え、高精度光学カメラを備えています。サブミリメートルの精度でリアルタイムに患者さんの位置や動きを追跡し、誤差の補正を行うことで、正確な治療を実施することが可能です。

その他の医療設備	手術室 10室	SCU 9床	無菌室 10床
	血管造影室 3室	NICU 10床	MRI 2台
	透析室 20床	救命救急センター 24床	診断用CT 3台
	化学療法室 25床	第一種感染症病室 2床	治療計画用CT 1台
	ICU 8床	第二種感染症病室 6床	RI 1台

● 内視鏡 AI 画像診断支援システム
医師とAIの協働により確かな診断を実現



内視鏡AI画像診断支援システム（AI内視鏡）は、内視鏡検査における病変の検出と診断を支援するAIシステムです。当館でも、「がん見逃しゼロ」を目指し、AI内視鏡を導入しています。当館のAI内視鏡は、「病変検出支援機能」と「疾患鑑別支援機能」を搭載しており、スコープのスイッチ一つで起動する利便性を備えています。「病変検出支援機能」は、リアルタイムに検出した病変箇所を、内視鏡画像上に枠を囲い表示し、報知音を発することで、医師による病変の見逃しを減少させます。「疾患鑑別支援機能」は、病変箇所が腫瘍性又は非腫瘍性である可能性を推定し、リアルタイムにその結果を表示して、医師による疾患の迅速かつ正確な識別を支援します。当館では、AI内視鏡の革新的な技術の恩恵を、「早期診断・早期治療」という形で県民の皆さんに還元してまいります。

2026年4月、新棟が完成します

災害時医療機能の充実、高度急性期・救急医療の充実、地域医療連携・入退院支援機能の充実、質の高い職場環境の確保を図るため、2024年3月から2027年3月までの3年間にわたり、増築等整備事業を実施します（2026年4月には新棟が完成し、その後病院棟の一部改修を行います）。好生館が果たすべき役割や機能の充実・強化を図り、患者さんやそのご家族、来館者や地域の皆様にとって信頼される病院となるべく事業を進めてまいります。工事の施工に際しては何かとご不便をおかけすることになりますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

